

# 保健体育科教員養成課程における学校保健の指導について

## Study on Teaching Method of School health In the Physical Education teacher training courses

杉 岡 品 子<sup>1)</sup>  
Shinako SUGIOKA

### I. はじめに

我が国における技術革新やグローバル化、情報化等の社会状況の変化、都市化や自然環境汚染等の環境の変化、さらに、ライフスタイルの変化や地域共同体の機能低下等の生活様式の変化は、子どもの生活に大きな影響を与えている。そして、子どもの発達や健康にも様々な問題が顕在化している。具体的には、偏った栄養摂取などの食生活の乱れ、身体活動の低下、睡眠不足をはじめとする生活習慣の乱れ等が見られ、生活習慣病の兆候やアレルギー疾患の増加、ストレスの増大等の心身の問題がある。また、いじめや不登校、暴力行為、性に関する問題行動、飲酒・喫煙・薬物乱用等は、多様化・深刻化している。さらに、事故や事件に巻き込まれることによる生命・健康被害等の子どもの安全に関わる問題や家庭の経済格差が教育力の低下を招くという子どもの貧困問題も増加している。このように、子どもの健康・安全に関わる問題は、時代とともにその姿を変えながら出現している。

このような状況の中で、近年の我が国の取

組みとしては、「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」（2000年）の推進、「食育基本法」の制定（2005年）、教育基本法の改定（2005年）、「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」の答申（2008年）、「学校保健法」を改正した「学校保健安全法」の制定（2009年）、「学習指導要領」の改訂（2008、2009年）等、多くの施策が進められ、子どもの健康の保持増進を図っている。文部科学省は、中央教育審議会の答申<sup>1)</sup>の中で、学校は、子どもが生涯にわたり自らの心身の健康を育み、安全を確保することのできる基礎的な素養を育成していくことが求められていることを指摘した。そして、子どもの現代的な健康課題を解決するために、学校保健計画に基づき、それに関わる学校内の関係組織が十分に機能し、全ての教職員で学校保健（保健管理・保健教育）に取り組む必要があることを提言した。また、日本学術会議は、健康・生活科学委員会子どもの健康分科会の記録<sup>2)</sup>の中で、子どもの心身の健康づくりを推進するために、子どもの健

---

1) 北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科

キーワード：保健体育科 教員養成 学校保健

康に関する支援的な環境や公共政策の確立とともに、家庭・学校・地域社会が連携していく必要性を指摘した。そして、子どもの健康危機・安全管理別に、課題解決を図るために家庭・学校・地域が行う具体的な方策について述べた上で、学校は、健康教育を学校全体で推進するとともに、教科としての保健体育教育を重視し、必要な時間数の確保に努める必要性があることを提言した。

学校において行われる学校保健は、学校で営まれる子どもの健康の保持増進を図るために行う健康診断や健康相談、学校環境衛生管理等の保健管理と、子どもが自分自身や他者の健康課題を理解し、自己管理を行う実践力を養うために行う保健をはじめ関連する教科学習や指導等の保健教育で構成され、学校保健安全法（H21 学校保健法から改称）に基づき行われる。保健体育科教員は、保健主事（保健に関する活動の調整に当たる教師）や養護教諭とともに、校内の学校保健に関する組織活動（学校保健委員会等）の構成メンバーとして、学校保健計画及び学校安全計画の作成に携わり、学校保健活動を推進する。また、学校保健を構成する保健教育における教科学習は、健康に関わる知識を総合的に指導する教科としての保健が主なものとなる。このため、保健の授業を行う保健体育科教員は、子どもが保健の知識を習得し、自らの健康問題を理解できる能力を育成するという重要な役割を担っている。これらのことから、保健体育科教員を養成する大学等の教育課程においても、保健科教育のカリキュラムを充実させ、学生の学校保健についての理解を深めるとともに、保健科教育の指導実践力の育成につながる授業を展開することが求められている。

本論では、保健体育科教員養成課程における保健科教育のカリキュラムとしての「学校保健」の内容、展開方法等の実際を示し、今後の課題について述べる。

## Ⅱ. 生涯スポーツ学部スポーツ教育学科での保健体育科教員養成について

### 1. 理念

2009年に生涯学習システム学部健康プランニング学科から発展的改組により開設された生涯スポーツ学部スポーツ教育学科（以下：「スポーツ教育学科」と記す）は、スポーツ教育に関する高い専門知識と実践的技術を学び、生涯スポーツ社会の実現に向けて、競技スポーツ、学校教育、地域社会で活躍できる人間性豊かな人材を育成することを目的としている。同学科は中学校・高等学校教諭一種免許状「保健体育」の教職課程を有し、健康プランニング学科卒業生と合わせると、これまで195名（平成29年1月現在）の保健体育科教員（正規採用）を輩出している。

教員養成の理念は、「教育・教師に対する強い情熱を持ち、スポーツ・健康に関する専門的知識を修得し、実践的指導力のある保健体育科教員を養成する」ことである。

### 2. カリキュラム

スポーツ教育学科における中学校教諭一種免許状「保健体育」及び高等学校教諭一種免許状「保健体育」を取得するための授業科目と単位数を表1に示す。

教科に関する科目では、中学校「保健分野」（以下：「保健分野」）、高等学校「科目保健」（以下：「科目保健」）に関わる科目は、「生理学」「運

表1 中学校教諭一種免許状「保健体育」及び高等学校教諭一種免許状「保健体育」の授業科目・単位（北翔大学『学生便覧2016』p178-179より作成）<sup>3)</sup>

(1) 教科に関する科目（第4条第1号）

免許法施行規則に定める科目区分等及び最低修得単位数		左記に対応する本学開設授業科目及び単位数		
科 目 名	単位数	授 業 科 目	中単位数	高単位数
体育実技	各1単位以上	生涯スポーツ指導演習（体づくり運動）	②	②
		生涯スポーツ指導演習（器械運動）	②	②
		生涯スポーツ指導演習（陸上競技）	②	②
		生涯スポーツ（水泳・水中運動）	①	①
		生涯スポーツ指導演習（バスケットボール）	②	②
		生涯スポーツ指導演習（バレーボール）	②	②
		生涯スポーツ（野球・ソフトボール）	①	①
		生涯スポーツ（バドミントン）	1	1
		生涯スポーツ指導演習（サッカー）	2	2
		生涯スポーツ（冬季スポーツ）	①	①
		生涯スポーツ指導演習（ダンス）	②	②
		生涯スポーツ指導演習（武道）	②	②
		野外教育実習	②	②
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	計20単位以上	体育原理	②	②
		スポーツ心理学	②	②
		スポーツマネジメント	2	2
		スポーツ社会学	2	2
		スポーツ運動学	②	②
		スポーツ史	2	2
生理学（運動生理学を含む。）		生理学	②	②
衛生学及び公衆衛生学		運動生理学	②	②
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		衛生学及び公衆衛生学	②	②
学校保健		学校保健	②	②
合 計	20	合 計 必 要 修 得 単 位 数	33	33

(2) 教職に関する科目（第4条第2号）

免許法施行規則に定める科目区分等及び最低修得単位数		左記に対応する本学開設授業科目及び単位数		
科 目 名	単位数	授 業 科 目	中単位数	高単位数
教職の意義等に関する科目	2	教職概論	②	②
教育の基礎理論に関する科目	6	進路選択に資する各種の機会の提供等		
		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	②	②
		幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（備忘のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	②	②
教育課程及び指導法に関する科目	高6中12	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	②	②
		教育課程の意義及び編成の方法	②	②
		各教科の指導法	②	②
		保健体育科教育法Ⅰ	②	②
		保健体育科教育法Ⅱ	②	②
		保健体育科教育法Ⅲ	②	②
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	保健体育科教育法Ⅳ	2	2
		道徳教育論	②	②
		特別活動論	②	②
		教育方法論（情報機器・教材活用を含む）	②	②
教育実習	中5高3	生徒指導論（進路指導を含む）	②	②
		教育相談論（カウンセリングを含む）	②	②
		教育実習事前指導	①	①
		教育実習事後指導	①	①
教職実践演習	2	教育実習Ⅰ	④	*4
		教育実習Ⅱ		*2
合 計：中学校 31、高等学校 23		教職実践演習（中・高）	②	②
備考：高等学校教諭1種免許状取得のためには*印の科目から1科目を選択して履修すること。		合 計 必 要 修 得 単 位 数	34	30

(3) 教科又は教職に関する科目（第4条第3号）

免許法施行規則に定める科目区分等及び最低修得単位数		左記に対応する本学開設授業科目及び単位数		
科 目 名	単位数	授 業 科 目	中単位数	高単位数
教科又は教職に関する科目	中8高16	学校ボランティア活動Ⅰ	1	1
		学校ボランティア活動Ⅱ	1	1
		介護等体験	①	1
		道徳教育論		2
合 計		合 計 必 要 修 得 単 位 数	8	16
備考：(1)「教科に関する科目」及び(2)「教職に関する科目」左欄の免許法施行規則に定める最低修得単位数を越えて修得した単位を含み、中学校教諭1種免許状は8単位以上、高等学校教諭1種免許状は16単位以上修得する。				

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に規定する科目（第4条第7号）

免許法施行規則に定める科目区分等及び最低修得単位数		左記に対応する本学開設授業科目及び単位数		
科 目 名	単位数	授 業 科 目	中単位数	高単位数
日本国憲法	2	日本国憲法	②	②
体育	2	健康体育（実技を含む）	②	②
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ	②	②
情報機器の操作	2	情報機器操作Ⅰ	②	②
合 計	8	合 計 必 要 修 得 単 位 数	8	8

動生理学」「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健」の4科目8単位としている。

教職に関する科目では、「保健体育科教育法Ⅲ」で、「保健分野」「科目保健」に関わる知識と指導力の育成を図っている。

筆者は、生涯スポーツ学部の専任教員として、「学校保健」及び「保健体育科教育法Ⅲ」を担当している。

### 3. 「学校保健」の取り組み

#### (1) ねらい・到達目標

本科目は、「保健体育科」に含まれる「保健分野」「科目保健」に関わるものであり、2年次後期に配置されている。

「学校保健」は、学校における児童・生徒・教職員、施設・設備、学校生活の全てにわたる健康と安全に関する管理及び教育をさすものである。そして、構造・機能上「保健管理」と「保健教育」の二大領域で構成され、加えてこれらの円滑な運営のための保健組織活動を含むものである。

従って、本授業のねらいは、『「保健管理」と「保健教育」についての理解を得たのち、それぞれに包含される「健康管理・環境管理」「保健学習・保健指導」についての具体的な内容について学ぶ。また、児童・生徒の心身の発達や心身の問題について理解を深め、救急処置の基礎を理解する。そして、理解した内容をもとに、「保健学習・保健指導」の実践力につなげる』こととした。

到達目標は、以下の5つを位置づけた。

- 1) 「保健管理」(「健康管理・環境管理」)について理解する。
- 2) 「保健教育」(「保健学習・保健指導」)について理解する。

- 3) 小児保健および精神保健について理解する。

- 4) 救急処置の基礎を理解する。

- 5) 「保健教育」(「保健学習・保健指導」)の実践力につなげることができる。

#### (2) 講義内容

講義計画は、表2の通りであり、以下の内容で展開している。

##### 1) 第1回 オリエンテーション

本科目の目的、目標、展開内容、評価方法を理解する。

##### 2) 第2回 「学校保健」の基礎

「学校保健」の意義と目的及び「学校保健」を構成する二大領域(「保健管理」「保健教育」)について理解を深める。そして、保健体育科教員は、保健組織活動の中心メンバーとなり、学校保健安全計画を企画・立案し進めて行くことを理解する。

##### 3) 第3回 保健管理(1)

「保健管理」に含まれる「健康管理(对人的保健管理)」に関する具体的な内容(保健調査、健康観察、健康診断、健康相談について学ぶ。

##### 4) 第4回 保健管理(2)

「保健管理」に含まれる「環境管理(対物的保健管理)」に関する具体的な内容(学校環境衛生)について学ぶ。

##### 5) 第5回 保健管理(3)

「保健管理」に含まれる「学校安全」に関する具体的な内容(安全管理、安全教育)について学ぶ。そして、生徒の安全を守ることにつながる事故や災害等の危機に対処するための危機管理の重要性について理解を深める。

## 6) 第6回 保健教育 (1)

「保健教育」に包含される「保健学習」の年間指導計画、単元計画について学んだ後、学習指導案（単位時間計画）に関する具体的な項目や作成時に留意する点について理解を深め、指導方法について学ぶ。

## 7) 第7回 保健教育 (2)

「保健教育」に包含される「保健指導」に関する具体的な内容について学ぶ。そして、現代における子ども達の健康課題として、①喫煙・飲酒・薬物乱用防止、②性・エイズ教育、③生活習慣病を取り上げ、保健指導に関する具体的な内容について学ぶ。

## 8) 第8回 小児保健 (1)

子どもの成長・発達及び評価方法について学ぶ。

## 9) 第9回 小児保健 (2)

子どもの各期（乳幼児期・学童期・思春期）の特徴について学び、子どもの年齢毎の理解を深める。

## 10) 第10回 小児保健 (3)

児童・生徒の身体的な健康問題について学ぶ。特に、保健体育教員が体育実技を行う際、配慮が必要な疾患の症状や対応方法等について理解を深める。また、近年、発達障害の診断を受けた子どもや行動特性を持つ子どもの割合が増えていることを受け、発達障害（高機能自閉症、アスペルガー障害、注意欠陥／多動性障害、学習障害）について理解を深める。

## 11) 第11回 精神保健 (1)

心と身体につながりやストレスと心身相関、運動が心身に与える影響や効果について学ぶ。

## 12) 第12回 精神保健 (2)

児童・生徒の精神的な健康問題について学ぶ。特に、二次的障害につながる可能性のあるいじめや不登校について取り上げ、それらの具体的な内容（いじめの態様・特徴・不可視性、不登校の現状・背景等）や支援について理解を深める。

## 13) 第13回 救急処置

学校管理下で発生する負傷、障害、死亡事例のうち、体育・スポーツ活動中の発生率が高いことを踏まえ、救急処置（心肺蘇生法・応急処置）について理解を深める。

## 14) 第14回 保健教育 (3)

大学院生等による保健分野の模擬授業を受け、授業の進め方、最近の話題や具体例の取り入れ方、説明の仕方等を学ぶ。また、生徒役として授業を受けることで、生徒の視点に立ち、わかりやすい、興味が持てる、学力が向上する授業はどのようなものかを考える機会とする。

## 15) 第15回 振り返りとまとめ

第2～13回目までの講義を振り返り、確認テストを受ける。

## (3) 講義の特徴

本科目は、基本的には講義形式で進めるが、学生へ質問・討議・ミニレポートなどを課し、学生が能動的に学ぶようにしている。

講義で取り扱う内容は、講義計画からもわかるように学校保健だけでなく、小児保健、精神保健、救急処置と多岐にわたる。これらは、いずれも保健体育科教員として理解しておかなければならない重要なものだが、各項目に配置できる時間は限られている。このため、まずは、学校保健を構成する二大領域（「保

健管理」「保健教育」とそれぞれに包含される「健康管理・環境管理」「保健学習・保健指導」の具体的な内容を確実に理解するとともに、保健体育科教員が学校保健で中核の役割を担うということを自覚できるように、丁寧に講義している。そして、小児保健、精神保健、救急処置は、限られた時間の中でそれぞれの基本的な内容を押さえつつ、近年の子どもの状況や課題を反映したものにしている。

保健授業を実践する上で授業のシナリオとなる学習指導案は、指導計画の中で最も具体的なものである。このため、授業がイメージできるように、学習目標、学習内容、学習活動、指導方法等を明確に記述することが必要である。学習指導案の基準的な形式は定められてはいないが、記載する項目について丁寧に説明し、学習指導案そのもののイメージを持てるようにしている。また、教育実習を終えた大学院生等による保健の模擬授業を生徒

役として受けている。これらにより、3年次前期の「保健体育科教育法Ⅲ」で行う学習指導案作成及び模擬授業の実施のための基礎固めを図っている。

#### (4) 評価

評価は、平時の授業の意欲・態度が20%、毎回の小レポートの取り組みと提出30%、筆記テスト50%で行う。

### Ⅲ. まとめと課題

本論では、保健体育科教員養成課程における保健科教育のカリキュラムとしての「学校保健」を対象として、授業内容・展開・評価等について述べた。本科目における課題を以下に記す。

これまで述べてきたように、学校における児童・生徒・教職員、施設・設備、学校生活

表2 「学校保健」の講義計画

回	テーマ	内 容
第1回	オリエンテーション	目的、目標、展開内容、評価方法を説明する
第2回	「学校保健」の基礎	「学校保健」の意義と目的、構成（保健管理・保健教育）について学ぶ
第3回	保健管理（1）	対人的保健管理（保健調査、健康観察、健康診断、健康相談）について学ぶ
第4回	保健管理（2）	対物的保健管理（学校環境衛生）について学ぶ
第5回	保健管理（3）	学校管理、学校安全について学ぶ
第6回	保健教育（1）	保健学習について学ぶ
第7回	保健教育（2）	保健指導について学ぶ
第8回	小児保健（1）	小児の発育・発達について学ぶ
第9回	小児保健（2）	乳幼児期、学童期、思春期の特徴について学ぶ
第10回	小児保健（3）	児童・生徒の健康問題について学ぶ
第11回	精神保健（1）	心の健康について学ぶ
第12回	精神保健（2）	児童・生徒の心の問題について学ぶ
第13回	救急処置	応急処置、心肺蘇生法について学ぶ
第14回	保健教育（3）	模擬授業を受け、授業の進め方、具体例の取り入れ方について学ぶ
第15回	振り返りとまとめ	振り返りと確認の試験、まとめを行う

の全てにわたる健康と安全に関する管理及び教育である学校保健は、子どもの現代的な健康課題を解決するためにとても重要なものである。このため、学校保健において中核の役割を担う保健体育科教員を目指す学生は、学校保健の内容を確実に理解することが不可欠となる。しかし、現在のカリキュラムでは、本科目に小児保健・精神保健・救急処置が含まれ、学校保健に配置できる時間数は限られているため、教授する内容が十分とはいえない。このことは、小児保健・精神保健・救急処置についても同様である。本科目の講義終了時のアンケートでは、「保健体育教員が体育を教えるだけではないことをあらためて理解した」「保健体育科教員が、生徒の健康と安全により深く関わる立場にあるという認識はなかった」「子どもの心身の健康に関わる内容は重要だが、自分の知識は十分ではないと感じる」等の記載が見られ、本科目で学んだことを理解しているだけに、自分自身の知識不足を実感したことがわかる。このため、今後は、講義内容のさらなる充実を図るとともに、学生自身が講義外でも自ら学びを深める機会を積極的に持つ学習意欲向上に向けて検討をすることが必要である。

保健体育科教員は、子どもが保健の知識を習得し、自らの健康問題を理解できる能力を育成するという重要な役割を担っているが、学生の様子を見てみると、自らの健康に無頓着で管理ができていないことが散見される。岩田ら<sup>4)</sup>の調査では、保健体育教師志望学生の高校の保健内容の習得状況は十分とは言えず、教員養成課程における保健分野の教育の改善や充実の必要性が示唆されている。このため、まずは、自分自身の心身の状態に目を

向け、健康問題を把握し、その状態にあった適切な対応ができるような指導を取り入れていくことが必要である。

## 文 献

- 1) 文部科学省(2008)：子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について(答申).中央教育審議会.
- 2) 日本学術会議(2008)：現代におけるこどもの健康生活の擁護と推進に関する課題と方策－地域・学校におけるヘルスプロモーションの推進－.健康・生活科学委員会子どもの健康分委会.
- 3) 北翔大学(2016)：学生便覧, p.178-179.
- 4) 岩田英樹・野津有司・片岡知恵ほか(2010)：保健体育の教員免許取得をめざす大学生における高校の保健内容の習得状況について(2), 第62回日本体育学会大会予稿集, P248.